

公報

農商務省第二十七號 府 縣
本年第十九號ヲ以テ商標條例中告相成候處其應所轄官設工
場ニ於テ其製造品ニ商標ヲ專用セント欲スルハ總テ本條
例及ヒ本年第十三號布通商標登錄手續ニ據リ候儀ハ勿論
ニ候得共其商標登錄願届書差出方手續ハ直ニ當省商標登錄
所ニ爲差出登錄相續候上手續料ハ其應ノ收入ニ當年第二十
四號通商標手續大藏省ニ納付候儀ト相心得ヘシ
但各省所轄官設工場登錄商標ノ備モ本文手續ニ據リ登錄
簿ノ上手續料ハ工場所在地地方廳ニ送付候儀ニ付其收納方
ハ本文ノ通取計ヘシ
右相續候事
明治十七年九月十六日 農商務卿 西郷從道

時事新報

○明治十七年九月十五日
大藏大臣書記官兼參事院員外議官補正六位 加藤 濟
任大藏大臣書記官兼參事院員外議官補正六位 加藤 濟

攻ムル者防シ者

昨日ノ紙上ニ本社特派通信員ガ去十四日上海ヨリ發シタル
ノ電報ヲ載テ佛國政府ハ銳意進擊ノ決心セル由ノ風説盛ラ
ナル際、福州ヨリ達シタル確報ニ由リ、水師提督「シムレー」
氏ハ本國政府ノ指揮ニ依リ清國沿岸隨意ノ場所ニ向テ攻撃
占據ノ自由ヲ得タリトノ旨ヲ報シタリシガ抑モ此一報ハ「
シムレー」提督ニ支那一面到ル處隨意攻撃ノ自由全權ヲ任
セ實ニ佛國艦隊ノ運動ニ重大ノ關係ヲ有スル者ニシテ今日
以後提督ハ何處ニ向フベキヤ又佛國艦隊ハ何處ニ砲撃スベ
キヤ急々ソノ攻撃ノ結果ノ來電アル迄ハ苟モ佛清事件ニ注
目スル人トアレバ必ズ佛國ノ如何ナル機變ニ出ラベキヤヲ
察シテ種々ノ臆測説亦隨テ生出スルニ相違無カラシ蓋シ時
事ノ變動ハ今日ニ居テ明日ヲ測リ知ル可ザル者ノ中ニモ
今回ノ變ノ如キハ取分テ軍機兵略ノ秘ニ涉リテ瞬息ノ間ニ
モ猶如何ナル成行ニ立至ルベキヤ咫尺ノ先キハ眞ノ暗黒ニ
シテ人知預メコレヲ察スルコト難シト雖モ兎ニ角ニ佛清交戦
ノ一局、「シムレー」提督砲撃ノ向フ所ハ殆ント滿世界ノ人
ノ口頭ニ上ルベキ重大ノ話柄且ツ事件ニシテ二人以上相會
スレバ談必ズコレニ及ハザルハ無カルベシ人モ我モ同シク
臆測ノ見ヲ下スノミナラズ其臆測中ニハ亦自カラ實ニ近キ
アリ處ニ似タルアリテ之ニ一刀兩斷ノ裁決ヲ下スハ難事ナ
レドモ到底今日以後ノ事ヲ言ハントスレバ談乃チ臆測推量
タルニ過クベカラザルガ故ニ我輩ハ提督ガ右重大ノ全權ヲ
得タル今日只今、人モ我モ注目スルソノ將來ノ軍略ニ關シ
テ聊カ所見ノ臆測論ヲ開陳シ以テ二三ノ推量ヲ下サント欲
ス左レド測リ難キ今日ニ在テ測リ難キ軍略ノ機ヲ言フ明日
以後言ノ當否ハ姑ク問テ論セザルコトナシサテ所見ヲ述ベ
シトモ種々ノ臆測説アリテ提督ノ軍略多分ハ北上シテ三色
旗ヲ渤海灣ノ濱ニ輝スナラント推量スル人アレバ又ハ南下
シテ廣東邊ヲ衝クニ相違無カラント預言スル者モアリ就レ

○シテモ佛國艦隊ガ永ク一ツ處ニ其鋒ヲ向ケテ他ノ策
ヲ顧ミザルノ謂ハレモアルマシト支那一面、隨意攻撃ノ
全權ヲ得タル「シムレー」提督ノ軍略ノコトナレバ北上南下ノ
說亦甚ダ理由ナキニ非ズト雖モ先ツ首トシテ北ノ方北京ヲ
衝クトセンカ左ノシテ清國北門ノ固メハ本浩アリ天津ヲ
リ其灣口遠淺ニシテ暗沙アルガ上ニ天津以北ニハ白河(即
チ百一ノ一ノ九十九曲折ノ險所トカ云ヘル難所ナル由)
アリテ其岸上陸地ノ守備亦頗ル嚴シク加フルニ遼東灣ノ
邊ニハ北洋水師ノ艦隊アリテ其力或ハ薄弱ナルベシト雖モ
又決シテ佛國ノ侮リ得ベキ者ニハ非ズト思ハル且ツ一方ヨ
リ佛國艦隊ノカチ接スルモ最初福州砲擊ノ際ニハ艦數僅カ
十二艘ニシテ其後二艘駛セ加ハリ十四艘トナリシ由ナルガ
此十四艘ノ一艦隊ヲ渤海灣ニ乘入リ北京ノ要喉ヲ衝クコ
足ラサルハ單ニ數ニ照シテモ明カナルベシ又自下東京及ヒ
支那海ニ在ル佛國總軍艦ノ數ハ甚ク詳カナルナラズト雖モ或
海軍ノ事ニ注視スル人達ノ言ニ從ハバ戰用ニ供スベキ佛國
ノ東洋艦隊ハ二十餘艘ニシテ是トモ悉皆ハ備強一等ノ船
艦ニ非ザルベシトノコトナリ若シ此概算ヲシテ佛艦目下ノ大
數ニ差フナレトモ「シムレー」提督如何ニ勇ナリト雖モ兵
機ニ富ム老將ノ事ナルベシト雖モ支那ノ虛實ヲ探リ形勢
ヲ視テ輕卒ノ運動ヲ爲サザルベシトモ佛清ノ交戦倍々
急ニ赴カバ佛ノ本國政府ニ於テモ今ノ如キ孤弱ノ東洋艦隊
ヲシテ僅ニ拾遺シベキ管無クシテ必ズ大軍ヲ出シ艦隊ヲ増
遣スベシ其時ハ大舉シテ一意天津ヲ衝クコトモアルベシト
雖モ目下十四五艘乃至二十餘艘ノ艦隊ナル間ハ到底佛軍ガ
北上ノ策ニ出ツルナカラント臆測スルモ事ノ相面ニ於テ亦
大差アラザルベキナリ然ラハ佛艦ハ北上ノ企テ見合セ其船
首ヲ南ニシテ廣東邊ヲ衝キタラハ功ヲ收ムルコトモ容易ナリ
ト云ハシカ收功ノ易キハ如何ニモ其言ノ如クナルベシトス
ルモ支那大帝國ガ僅ニ極南地方ノ數小土塊ヲ陷ルレタリト
テ佛軍長驅直ニ北京首府ノ安危ヲ劫スベキニ非ザルハ萬々
ノ理ナルガ故ニ南下ノ一策以テ清國ヲ窘マシムルニ足ラザ
ルハ必ズ定ナリ其喉ヲ斷マンカ支那帝國ノ牙説クシテ明ニ近
ツキ難キ其唇ヲ打タンカ象大ノ邦土僅カ此レ式ノ痛ミヲ感
ゼザルナリ如何シヤ左レバ北上ノ策ハ佛國ノ甚ク求ムル所
ナランナレバ其力足ラズ南下ノ略ハ力餘リアルベキモ功少
シトセバ此向説ハ事實ニ遠キ臆測トシテ爰ニ甚ク多分ラシ
キ一説ハ佛國艦隊ガ常ニ何處トモ預メソノ向フ所ヲ知ラセ
ズシテ忽チ天津ニ忽チ廣東ニ忽チ廈門、寧波ニ凡ソ船ノ近
ツキ得ル岸地ニハ乍出乍沒ノ攻撃ヲ爲シテ支那ノ兵師ヲ奔
命ニ疲レシメ清軍府ヲ固ムレバ佛艦突然トシテ北ヲ攻メ北
ニ向テ清軍來ルルハ又去テ南ニ向ヒ支那ヲシテ其所指ノ度
ヲ失ハセ兵卒ハ奔走ニ疲困シテ將帥ハ謀略ノ呼吸ヲ誤リ轉
テ相困或チ極ムルニ際ニハ慮アリテ乘スベキ佛國ガソノ
功ヲ收ムルノ捷徑妙法ハ唯支那ノ海岸ヲ處置リシメニ克ク
廻リ塵現出沒、瞬息ノ間ニ機變ヲ究メ支那ノ兵師ヲシテ既

○奔命ノ一事ニ疲レテ驚レシムルニ在リテ其鋒ヲ向ケテ他ノ策
ヲ以テ及テ可ラズトセバ「シムレー」提督ノ隨意攻撃ノ全權
ヲ得タル幸ヒ其艦隊ヲ率キテ只魯魯岸ヲ荒シ廻ルノ勝算
ニ出テシモ亦知ル可ラザルナリト云フニ在リ
右ハ理ニ於テ甚ク申條アル臆測説ナリトシテ就テコレヲ熟
察シタルニ我輩ハ折角ノ好軍略モ又ソノ用ヲ爲サザルナラ
シカト大ニ之ニ疑ヲ存セザル能ハザルヲ發見シテ即チソノ
仔細トハ佛國ガ支那ヲ奔命ニ疲ラスノ策略妙ハ妙ナレバ
肝腎ノ支那兵師ハソノ實、奔命ニ勞スルコトナク勝敗トモモ
依然トシテ攪乱スルアラザレバ佛國ノ勝算爲メニ組船モザ
ルヲ得ザル一事是ナリ全体支那ノ兵師ハ多クハ土着ノ徒ニ
シテ尤モ稀レコト地ヲ換シ移スモアリ例ヘバ彭玉麟ガ
江南ニ練リタル水師トカ左宗棠ガ引率スル湘勇トカ云フ
ノ類ハ手兵ニシテ其將ト與ニ遠ク相從フコトナルベシト雖モ
他ハ各省ニ於テ各省ノ兵トナリ而シテ佛清交戦ノ以前ニハ
兵師ノ送遣ニ洋上汽船ノ便アリシモ今ハ其途モ塞ガリ加フ
ルニ陸ニハ兵師送遣ノ要具タル鉄道モナクシテ既ニ命ニ奔
ルベキ道少キガ上ニ佛軍ノ東西出沒愈々神機ナレバ神機ナ
ルホドニ支那ハ唯益々茫然タル所ニシテ奔ルチ命スル者モ
ナク又命ニ奔ル者モナク所在ノ兵ヲ以テ所在ニ防戦シ隨テ
敗レテハ又戰ヒ、殺サレテハ又防キ佛艦ノ攻撃ハ如何ニ猛
威シ極ムルモ又殺伐ヲ盡ストモ北京ノ政府ハ泰然トシテ數
千里ノ内地ニ安坐シ交戦ノ沿岸ソノ災ハ慘毒ナラン出陣ノ
百姓共ノ苦ミモ如何許リナランカナレバ全興地圖九十万方
里ノ大帝國一取レバ尺寸ノ地惜ムニ足ラズ總人口三億七千
餘萬アリ所在ノ戰役ニ數百人ヲ失フモ隨テ寡レバ隨テ兵即
チ得、奔命ノ勞ナク坐シテ佛人ヲ待テバ佛人ハ最初ノ勝算
ニ組船シテ遂ニ、自カラ其手ノ引處ナキニ若ムコトナシトハ
云ヒ難シ左レバ佛國ガ支那ヲ奔命ニ疲ラスノ一策妙ナル
ニ似テ其實ハ支那軍奔命ニ勞ナク特ニ佛軍ガ各處隨意ニ荒
シ廻ルニモモ敵地ヲ荒スハ中々ノ難事ニシテ特ニ遼東ノ
北、廣東ノ南沿岸幾數千里ノ地何處トモ定メズ荒シ廻ル
ベキ管モナケレバ「シムレー」提督ノ胸算必ズ此處アト思フ
一個狙ヒ處ノ在ルアルニ相違ナカラン尤モ軍略ノ機佛艦故
サランソノ成行ナレバ清國ヲシテ端倪シ得ザラシムルノ
策ニ出ルハ勿論ナレドモ我輩ノ臆測以テ之ヲ判スレバ提督
ノ狙ヒ處トハ必ズ福建省近傍一帶ノ地方ニ在テ存スルナラ
シカト思ハル、ナリ (未完)

佛清事件

○佛軍の軍略 北支那日々新聞に讀者の説お佛艦之此後台
灣ニ向ヒ多分再ヒ難能を攻撃とべく而して目下台灣の外ニ
ハ手を出さざる見込なるべし現に佛軍は台灣占據の策を計
畫し居れり尤も長く同島を所有する積りなるが又は全く一
時之に占據せる見込なるか其邊の處は本國政府に於ても多
分未だ詳議一決せざるあらんと云へり又支那人は折々大割
斷したるは支那人よりも早く聞及む事むれは遺憾無事人
等の間にて佛艦が
り云々を見えたり
○清國の不利 退口
○恩氏は此度本國
制定の局外中立令中
て之を施行すとの
方よりも開戦の通
が爲めならん左れ
服スベキ船泊チ
明文あるも拘ら
を受けざる佛國甲
地の造船所に右
三日猶豫の末(多
の説あり)遂に同
字新聞之を評し
直ちに彼外國就役
港に於て軍艦の修
故にや未だ公然締
に英廷も佛艦の修
上あさ代合せある
國に此の如き便利
○上海道台の論議
々は儀に付さ上海
如し
天主教徒ハ條約
居ルモノナリ且
ルモノナレバ我
ルベカズ然ルレ
ニ乘テ天主教徒
アリ以テ外ノ次
一右様ノ所行チ
ハ嚴重ニ處分ス
致又我國人ニシ
皇帝陛下ノ赤子
サルハ勿論何人
テ嚴刑ニ處スベ
安リニ動搖スル
○南京の近事 湯
に乱暴を加へん
者ガ其事ニ付本
日福州の戦争に佛
聞きて大に怒リ
住する宣教師も
四方に傳へて來
し銘々敵艦持參
て佛人の爲に
驅逐したるは支
清官が此處を聞